

東日本大震災後における被災地（福島県相馬市）支援活動 — Team S.O.Sによる「心のふれあいサポート」実践 —

○國木 孝治 [広島大学大学院教育学研究科]

豊田勝義 [ウォーターワイズ] 音野太志 [NPO ウォーターパトロールシステム]

キーワード： 東日本大震災，ライフセービング，Team S.O.S，心のふれあいサポート

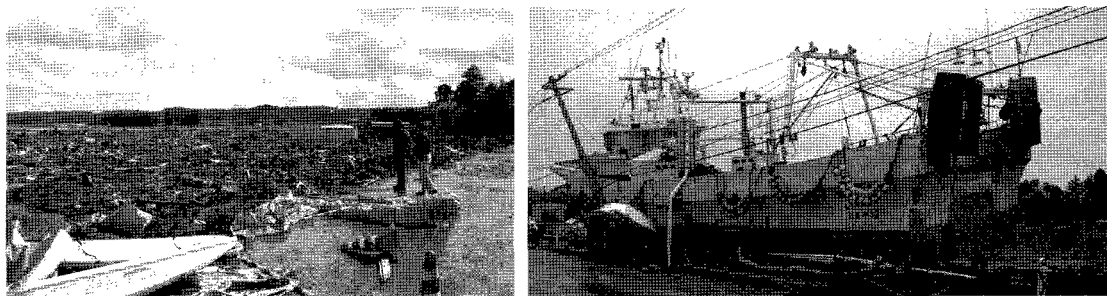
1. はじめに

2011年3月11日（金）14時46分、牡鹿半島の東南東約130km付近（三陸沖）で発生したマグニチュード9.0の大地震は、その後大規模な津波を発生させ、東北地方の太平洋沿岸部に甚大な被害をもたらした。さらには、震災に伴う東京電力福島第1原発事故により、大量の放射性物質が福島県内外に飛散、現在もなお土地や食べ物等を汚染し続けている。2011年9月30日現在、東日本大震災による死者は15,815名、行方不明者3,966名にのぼる（警察庁）。また、2011年9月22日時の、震災による避難・転居者は約73,249名と報告されている（政府・東日本大震災復興対策本部）。

この大震災4日後の3月15日、ライフセーバー有志3名（本発表者）が福島県相馬市、南相馬市に入り救援活動を始めた。数日後にはさらに数名のライフセーバー有志が加わり、4月上旬までの約3週間の活動に従事した。この間、相馬市長直轄の部隊として任を受け、「S.心配しない、O.恐れない、S.全てうまくいく」を合言葉に「Team S.O.S」を発足。救援物資の荷分けから人命救助活動に至るまで、様々な救援活動を行った。

救援活動が一段落し始めた4月上旬、避難者をはじめとする被災者の心のケアが必要であることを痛感した我々は、福島県相馬市における同じ境遇の被災者同士が話をできる空間と、子どもたちの笑顔が融合できる場を創り、心的ストレスを少しでも和らげることを目的に、思いを分かち合うことで心のふれあう時間を過ごすためのサポートを行う「心のふれあいサポート」を相馬市に提案した。この提案は相馬市に承諾され、市の全面的な後援のもと、毎月1度（休日を利用した複数日）、継続した2年間の活動を実施する運びとなった。

本研究は、東北大震災発生後、ライフセーバー有志による救援活動から波及し、広く多くの市民ボランティアが加わりながら「心のふれあいサポート」活動を行っている、Team S.O.Sの実践報告を目的としている。



図・1・2 津波による福島県相馬市の被災状況（2011年3月16日：筆者撮影）

2. 「心のふれあいサポート」実施報告

(1) 第1回「心のふれあいサポート」

2011年4月29日(金・昭和の日)から同年5月8日(日)までの10日間、「第1回心のふれあいサポート」を実施した。実施に当たっては、事前に相馬市広報誌に掲載案内を掲載(図・3)、且つ、開催前日の4月28日(木)から毎夕、各避難所を回って、チラシの配布と案内を行った。

「心のふれあいサポート」を開催します

水難救助などのボランティア活動を行う全国のライフセーバー有志によるTEAM S.O.S(チームエスオーエス)では、同じ境遇の被災者同士が話をできる空間と、子どもたちの笑顔が融合できる場を創り、心的ストレスを少しでも和らげる活動を実施します。思いを分かち合うことで心のふれあう時間をお過ごしください。

- 実施時間：4月29日(金)～5月8日(日)
- 場所：老人憩の家清流荘(山上字尖森 27-1)
- 時間：
 - △午前8時～11時30分
 - △午後13時～16時
- 参加条件：震災で被災された方のほか、老若男女、どなたでも参加できます。
- 参加方法：申し込みの必要はありません。直接会場へお越しください。
- 主な活動内容：
 - △子ども＝屋内外でのゲームや遊び
 - △大人＝円卓コミュニケーションによる語り
 - △お年寄り＝散歩や軽運動での気分転換や談話
 - ・・・いずれもボランティアメンバーがサポートします。
- 後援：相馬市
- 問い合わせ先：〇〇〇



図・3 相馬市「広報そうま」2011年4月25日号に掲載された第1回「心のふれあいサポート」告知

なお、期間中の5月3日(憲法記念日)・5月4日(みどりの日)・5月5日(子どもの日)の3日間は、相馬市よりマイクロバスを2台稼働して頂き、全ての避難所(7箇所)と仮設住宅(1箇所)を回り参加希望者の送迎を実施した。参加者のアクセス方法について、マイクロバス送迎のほか、マイカーでの来場もあり、期間中延べ約500名の参加者があった。

指導・サポートする側においては、Team S.O.Sメンバー以外にも、地元青年会や福島県内に勤務する小学校教諭・ALT(外国語指導助手)、他ボランティア団体、個人参加者らの協力も加わって、様々なプログラムを実施するに至った(図・4,5,6)。



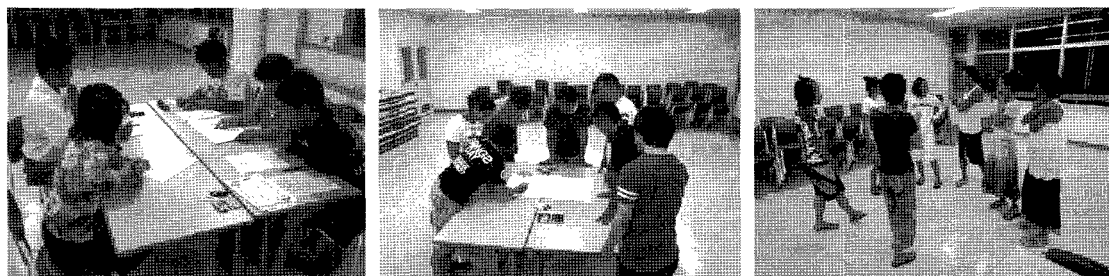
図・4, 5, 6 GW期間中の「心のふれあいサポート」実施の様子(筆者撮影)

(2)「ボランティア活動者育成セミナー」の開催

「心のふれあいサポート」に限らず、被災地におけるこうした活動には、放射能の問題等リスクを伴い、また、心的なストレス障害を抱える被災者への対応法、個々のコミュニケーション能力やチームワークスキルが必要とされる。また、レクリエーション指導における能力なども同時に必要である。そこで Team S.O.S では、今後の福島県相馬市においてこのような活動に協力していきたいという一般希望者を対象に、毎月1度の「ボランティア活動者育成セミナー」を実施している(表・1・図・7,8,9)。

表・1 これまでに開催した「ボランティア活動者育成セミナー」の実施概要と今後の計画

	2011年度実施日程(計画を含)	実施期間	参加者数
第1回	4月23日(土)～4月25日(月)	3日間	9名
第2回	5月25日(水)～5月27日(木)	3日間	8名
第3回	6月28日(火)～6月29日(木)	3日間	5名
第4回	7月19日(火)～7月21日(木)	3日間	7名
第5回	9月1日(木)～9月3日(土)	3日間	6名
第6回	10月4日(火)～10月6日(木)	3日間	—
第7回	11月16日(水)～11月18日(金)	3日間	—



図・7, 8, 9 「ボランティア活動者育成セミナー」実施の様子(筆者撮影)

3. 継続した活動の展開

Team S.O.S は現在までに、4月下旬より相馬市の支援のもと、毎月1度の「心のふれあいサポート」を実施(表・2)。また、実施に先立ち、被災地支援団体の助成のもと「ボランティア活動者育成セミナー」(表・1)を定期的で開催している。

表・2 これまでに開催した「心のふれあいサポート」の実施概要と今後の計画

	2011年度実施日程(計画を含)	実施期間	参加者数
第1回	4月29日(金)～5月8日(日)	10日間	約500名
第2回	7月30日(土)～7月31日(日)	2日間	67名(子ども50名/大人17名)
第3回	8月20日(土)～8月21日(日)	2日間	43名(子ども32名/大人11名)
第4回	9月23日(金)～9月25日(日)	3日間	99名
第5回	10月15日(土)～10月16日(日)	2日間	—
第6回	11月26日(土)～27日(日)	2日間	—
第7回	2012年1月7日(土)～8日(日)	2日間	—

3. おわりに

「心のふれあいサポート」実施後、参加者から手紙を頂戴することがある(図・10)。

報道で目にし、また実際に救援活動にあたるなかで目にした東日本大震災の爪跡は、我々が想像する以上に、多くの被災者の心に深く傷を残している。また、福島県内の公立学校では、現在もなお屋外での授業や遊びの場が制限されている。

我々Team S.O.Sは、これからも同じ境遇の被災者同士が話のできる空間と、子どもたちの笑顔が融合できる場を創り、心的ストレスを少しでも和らげる活動「心のふれあいサポート」を継続していきたいと考えている。

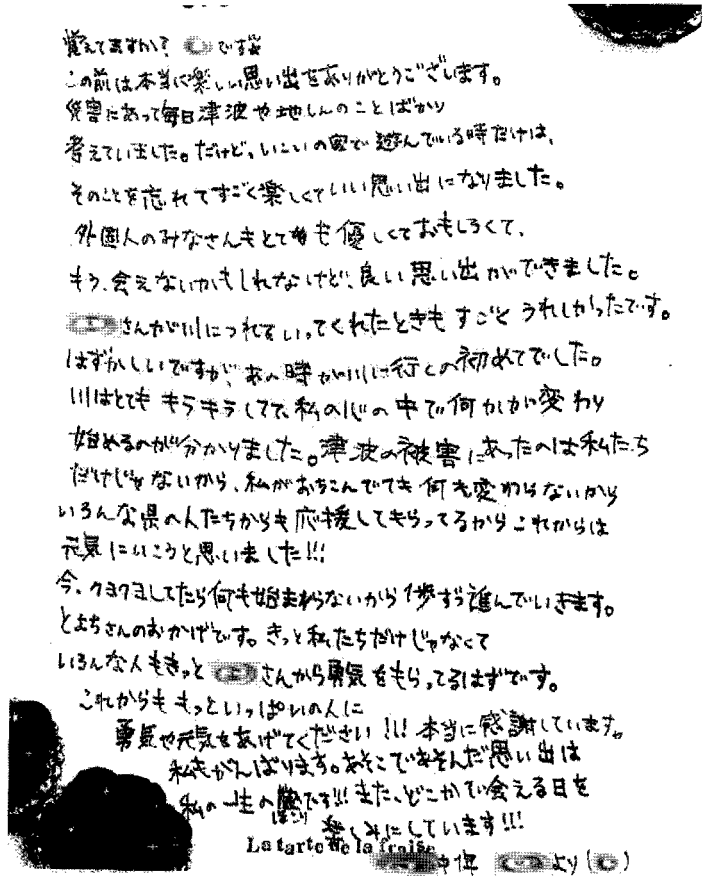


図-10 「心のふれあいサポート」参加者からの手紙 (Team S.O.S 資料)

4. 参考文献

- 1) 植田正太郎「フクシマ 3.11 の真実」ゴマブックス、2011年7月
- 2) 相馬市災害対策本部編「東日本大震災・相馬市の記録 - 第1回中間報告(3月11日～7月31日) -」相馬市災害対策本部、2011年8月
- 3) 福島民報社編「M9.0 東日本大震災 ふくしまの30日」福島民報社、2011年4月
- 4) Team S.O.S 編「心のふれあいサポート実施報告」、<http://t-sos.persimmons-inc.com/>